

# 今昔物語

その60

## 熊野大橋

成川地区



昭和9年ごろ



現在

今回は、昭和9年ごろに撮影された熊野大橋の写真をご紹介します。写真では橋梁の基礎部分が完成し、橋のアーチ部分が取り付けられようとしている様子が伺えます。

この熊野大橋が完成するまでは、当地域で三重県と和歌山県を結ぶ橋が存在しておらず、対岸に渡るためには「渡し」と呼ばれる渡船場から船に乗っていく必要がありました。

そのため三重県、和歌山県の両県が費用を折半し、共同で橋を架ける工事を行い、基礎部分の工事は和歌山県が、上部の工事は三重県が担当しました。鶴殿村史によると工事全体で39万円の費用が掛かったそうで、当時の物価が大卒初任給90円、おそばが1杯10銭といったことから換算すると、約8〜12億円に相当すると考えられます。昭和8年3月から昭和10年4月にかけて工事が行われ、全長418・5m、幅6mの熊野大橋が完成しました。

この橋の完成により、橋のふもとにあった、成川の渡しはその役目を終えましたが、下流にあった池田の渡し、上流にあった乙基の渡しは昭和30年ごろに廃止されるまで地域住民の交通手段として利用されていました。

## つむぎつむぎ

### イベントの夏が戻ってきました

今年の夏は花火大会や盆踊りをはじめとしたイベントが復活し、参加された方も多いのではないのでしょうか。僕も町内や近隣で開催したイベントに家族で参加させていただき、久しぶりに賑やかな夏を楽しませてもらいました。下の子どもは、本格的な花火大会は初めてだったので、テンションの上がり方がハンパなく火花が上がっている間は終始叫んでいました(笑)

ただ、お盆に日本を襲った台風の影響で、イベントの日程が変更するなど自分もそうですが、関係者のみなさんは大変だったと思います。

この文章を書いている時点では、8月ももう少し残っているのに、悔いのないよう残りの夏を過ごしていきたいと思います。

(まずは子どもの夏休みの宿題から！ 愛野裕基)

### 夏の思い出

このひとことを書いていく前日には、「第17回紀宝町花火大会」が開催されました。

今年は担当者として、準備を進めていたのですが、開催1週間ほど前に台風が接近していることを知り、1日に何度も進路予想や天気予報を見ながら、ハラハラした日々を過ごしていました。結局、延期になってしまいました。翌日には無事開催することができ、たくさんの人への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これまで花火大会が延期になったことはあまりないというところで、担当者の私が雨女という可能性が浮上ってきました…。しかし、翌日には開催できたのである意味晴女なのかもしれない、と自分の都合のよいように言い張っている私なのでした。チャンチャン。

(ホジントンすぎる 大森菜央)



広報担当  
愛野裕基



広報担当  
大森菜央